

第3回岐阜県地域人材育成協議会 議事要旨

1 開催日時及び場所

令和元年7月10日（水）13時45分～14時45分
OKBふれあい会館 404会議室

2 出席者

小森芳郎委員、筒井和浩委員、中谷誠次委員、増田雅彦委員

3 事務局

労働雇用課長

4 会議の概要

- ・あいさつ
- ・資料説明
- ・意見交換

5 主な意見

- ・OFF-JTプログラムの内容には、技術的な実践研修が組み込まれているため、即戦力として期待できると思われる。
- ・正規雇用ではなく、非正規で働き出した方のその後のフォローが必要と感じる。
- ・本事業に参加される、知識を身に付けて就職したいという強い意志がある方や、他のところでの経験がある方々は、はるかに即戦力になるし、就職するのに有利だと思う。
- ・モデル事業として3年間で必ず結果が出て、成功した事業としてモデルが取れ、ルーティンで常にある事業になれば良いと思う。
- ・社会経験が少ない20代の方たちは、事業主アンケートにもあるようにビジネスマナーが乏しい方が見受けられるようであり、その様な方が、結果的に就業されてからミスマッチを起こすのではないかと思う。事業の流れとしては素晴らしいので、そこについて、フォローアップが必要だと思う。

- ・受講者はすべて、ハローワークを通じているのか。ハローワーク以外で、新聞広告やインターネットなどを見て来た人はいないのか。若い方たちは、ハローワークへあまり行かないため、その方たちへのアプローチをどのようにやるのかなど、どのような受講者募集のやり方が一番良いかの見きわめが課題である。

- ・企業開拓等については、受託者が、もともと離職者の委託訓練や、より高度な在職者訓練を行っており、そのノウハウを活かして本事業を行っている。
- ・広報については、概ね9割がハローワーク、1割が新聞等を見て愛知県などから問い合わせがあった。本事業は、出身県を制限しておらず、岐阜県内の企業、事業所へ就職すれば良いため、今年度は、一宮や犬山のハローワークへも拡げていこうと考えている。
- ・昨年度、時間がない中での受講生確保に大変苦慮した。今年度は、昨年度の反省を活かし、早め早めに対応している。4ヶ月頑張っって研修を受ければ、企業側も絶対に欲しいはずの人材であるため、県としても、受託者に任せるだけではなく、岐阜県中小企業総合人材確保センターなども活用し、正規雇用率の上昇に繋がるよう努めたい。

- ・受講者数が少ないため、一人当たりの動向により、正規雇用率が大きく変動するため注意が必要である。